

## イエメン：空爆でMSF病院が全壊——地域医療は危機的状況に

イエメン北部サアダ州で国境なき医師団 (MSF) の支援している病院が 10 月 26 日夜、サウジアラビア主導の連合軍による空爆を受け全壊した。空爆は午後 10 時 30 分に始まり、病院は数回にわたって被弾、空爆はその後も断続的に 2 時間続けられた。病院スタッフと 2 人の患者は避難したため無事だったが、1 人の MSF スタッフが避難途中で軽傷を負った。同州ハイダン地区にあるこの小さな病院が破壊されたことにより、少なくとも地域の 20 万人が医療を受けられる場所を失ったことになる。

## 国際人道法の違反——連合軍に説明を要求

イエメンで MSF の活動責任者を務めるハッサン・ブースナインは「今回の攻撃はイエメンの民間人が完全にながしめられていることを示しています。ここでは爆撃は“日課”なのです。イエメンは総力戦の最中にあり、敵の支配地域でつかまった人は合法的な標的とみなされます。市場、学校、道路、橋、食糧を運んでいるトラック、国内避難民キャンプと医療機関が爆撃を受けて破壊されています。最初の犠牲者は民間人です」と話す。

民間人と病院に対する爆撃は国際人道法の違反であり、MSF は連合軍に対し、ハイダンでの攻撃の状況について説明を要求している。この病院の GPS 座標は定期的に連合軍に共有され、その屋根には MSF を表わすロゴがはっきりと描かれていた。

サアダ州で MSF のプログラム責任者を務めるミリアム・チエコは「空爆から 12 時間経っても、病院から立ち上る煙が見えました。入院、外来、産科の各病棟、検査室と救急処置室は全て破壊されました。ハイダン地域で唯一稼働し続けていた病院だったので……」と話している。

MSF がこの病院を支援し始めたのは今年 5 月。それ以来、約 3400 人の患者がここで治療を受け、1 月平均で約 200 人の紛争による負傷者が救急の処置を受けていた。MSF の現在の最優先事項は、できるだけ早く新しい医療施設を再建し、ハイダンの住民を対象とした医療を継続することだ。



MSFは現在、イエメン国内の8州（サヌア、サアダ、アデン、タイズ、アムラン、アッダリ、イブ、ハッジヤ）で活動。2015年3月に紛争が始まって以来、負傷者1万5500人以上を治療したほか、救急以外の医療も継続して行っている。

以上


---

**本件に関するお問い合わせ先：**

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平／趙 潤華

TEL：03-5286-6141／6153 携帯：090-5759-1983 FAX：03-5286-6124

E-mail: [press@tokyo.msf.org](mailto:press@tokyo.msf.org) <http://www.msf.or.jp>

メディア向けツイッターアカウント開設しました。  @MSFJ\_Press